

私たちの道

—— MC WAY を感じる ——

若かりし頃の失敗

1. 若かりし頃の失敗

- ・入社2年目(28才)の頃、IPOを目指す会社(売上200億円)の税務顧問を任される。
- ・業務内容は、毎月月次決算のレビューを実施して、経理に報告
→1年後くらいに「実は粉飾をしている」ことが発覚。
- ・社長に当時の上司と事情説明したが、動いてもらえず。。
→監査法人の“指導”もあり、契約は解約。数年後、会社は倒産(破産)

2. 今ならどうする？

- ・毎月経理の席から遠くに社長が見えるも挨拶できず(目が合っても会釈程度)。
(自分でも「社長に挨拶しないといけない」と感じてはいたが、一步踏み出せず)
→今なら、経理に会う前に必ず社長に挨拶をして「信頼」を蓄積した。
→チェックが終わった後はポイントを社長に「タイムリー」に伝えた。
- ・社長はなぜ粉飾にすることに至ったのか？を社長の目線で考えられず。
→おそらく「粉飾はダメ」という“正論”を第三者として伝えただけ。
→今なら、「気持ちはわかります。私が社長なら・・・」と伝えるはず。

若い頃に失敗はある。でも「前向き」な失敗でなければ「後悔」に繋がる。

→「MCWAY」にちゃんと向き合うことが大切と昔の自分に言いたい。